

全国曹洞宗青年会

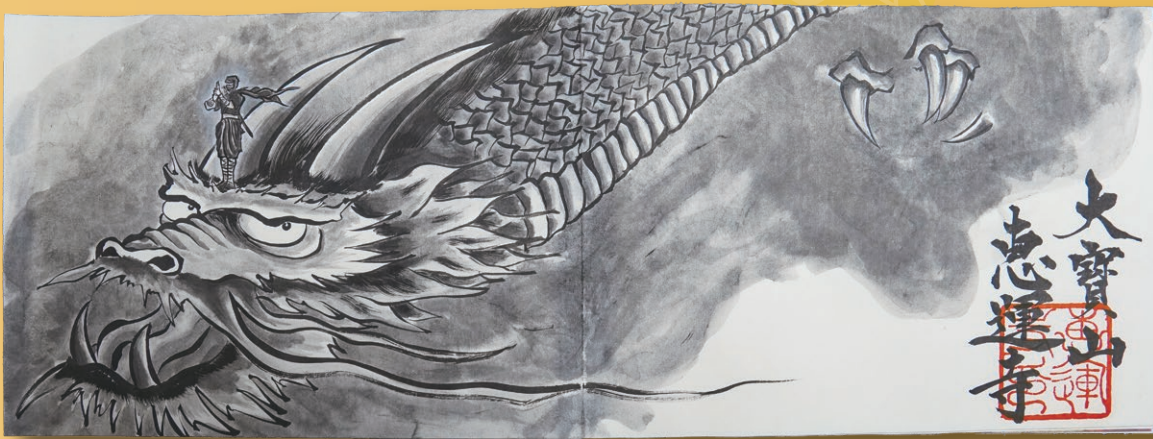
SOUSEI

2024.11 VOL.207



特集 御朱印の歴史と地域振興への想い

御朱印の歴史と地域振興への想い



御朱印は日本の伝統的な文化として多くの人々に親しまれています。神社や寺院を訪れた際に授かることができる御朱印には、訪れた場所の歴史や信仰、その場所との深い結びつきを感じ取ることができます。御朱印の魅力は、デザインの美しさや多様性、様々な地域のものを集める楽しさにもあります。神社仏閣ごとに異なるデザインや書体、印があり、訪れるたびに新たな発見があります。

また御朱印を授与している寺院や神社が多い地域では、それ自体が観光資源になります。近年、御朱印集めは若い世代を中心に人気を博しており、御朱印を求めて訪れる人々が増えることで地域全体の観光客数が増加し、経済効果が期待できるなど大きな可能性も秘めています。

SNSの普及により、御朱印も全国各地へ拡散され、新たな形で老若男女多くの方に認知されるようになりました。御朱印の形態も、御朱帳に書いてもらうもの以外にも、デジタル御朱印としてインターネット上で共有できるものや、書き置き御朱印にひと工夫加えたものなど、様々な進化をしています。

今特集では御朱印を通じて様々な活動をされている4師からお話を伺いました。書く側の思いを知ること、御朱印の魅力をより身近に感じられるのではないのでしょうか。

文／広報委員 補陀孝亮

初めて興味を抱いたのは大本山永平寺の安居中です。私が受処へ配属された時の寮長さんが物凄い字を書いておられました。「承陽殿」という中央の字は手本があるので誰でも書けますが、奉拝や参拜日、吉祥山永平寺は自分の字です。そこが綺麗というだけではなく魅力的な字で、頂いた方が皆さん感動されていました。それを見て御朱印には文字の魅力・力が宿るんだなと感じました。

送行後、師寮寺である恵運寺が和歌山西国の札所で、昔から御朱印をしていたことが分かりました。安居中の経験もあり、これは自分の仕事だと思い始めました。

—御朱印を始められたきっかけを教えてください。

—御朱印の歴史を教えてください。

御朱印の歴史を語る上で、巡拝の歴史と朱印の様式の歴史という2つの観点があります。

巡拝の歴史を深く掘り下げると、中世頃に法華経を各地の神社仏閣に納経して廻る「六十六部廻国聖」という集団がありました。その人たちが納経した証としてもらう納経請取状というものがあり、それが1つの原点といわれております。

様式の歴史となると、祈願文を書き般若心経などを納経した時にいただく納経料受領証と言われております。両者とも納経が関連しているのですが、これらは時代が進むにつれ実際に写経して納経す



やまもと じゅほう
山本 寿法 老師

和歌山県和歌山市 恵運寺住職
日本篆刻家協会理事・日本蘭亭筆会理事
随風会理事

平成6年より達磨御朱印を書き、テレビ東京なんでもランキングの全国御朱印ランキングで第3位を受賞。観光支援として紀州忍術の平和利用を目指し、和歌山市と協働事業を行う。

るのではなく、印刷した経典や青銅製の納経札で代用する場合もあり、必ずしも実際に写経した経文を納経する必要があります。これが後世「奉拝」という肩書きを生み出すきっかけとなります。

それから江戸時代中期頃、人々が巡拝に行けるようになりました。巡拝へ行くには関所を通らなければなりません、通行手形を神社やお寺でもらうことができたので、諸国を訪れる巡拝はその時代に流行しました。その巡拝が第1次ブームでした。しかし限られた富裕層の方でないと巡拝は行けませんし、各藩が他藩への人口の流出を懸念していました。そこで藩の中だけで廻ることができるようになり、写経が起るようになります。



その後明治維新があり、神仏判然令が1868年に布告されます。この時、神社のみ寺院のみという納経帳ができません。また旅の自由化も始まり、それまでは手形がないと自由に移動できなかった他県へ自由に往来できるようになり、第2次ブームが来ます。

大正デモクラシーから続く経済成長と世情の安定などで、更に旅行が活発化し第3次ブームが訪れ、写し霊場が盛んになります。このブームは第二次世界大戦で廃れますが、高度経済成長があり昭和40年代にまた盛り上がりがあります。現代の御朱印という形が決まったのは、昭和40年代ではないかと言われております。



そして現在のブームが2010年頃からはですが、爆発的になったのは2012年頃です。東日本震災があり国民に閉塞感がありました。その後、スマホを持つ人が増えはじめ、2012年に回線が3Gから4Gになりました。

X (旧 Twitter) や LINE、Instagram や動画が見れる YouTube。これらが4G回線になったことでより実用的になり、スマホの機能も充実し、各地の御朱印を手軽にSNSに投稿できるようになったことが大きいです。

「御朱印のデザインはどのように決められていますか。」

常に考えております。朝課中に思いつくこともあります。発案の原点は、お寺の歴史や祀られている仏像、宗門の教義や禅語などを重要視しております。お寺に関連のあるもので定番を作ることで、親しみやすさも出やすいですし、御朱印

を授与する根拠にもなり得ます。お寺の歴史から様々なものを見つけて、参拝者と対話を求めるためのデザインや、見てすぐに分かっていただけるデザインで、色々な引き出しを作ることが大切だと思います。

「特に思入れのある御朱印と、その理由を教えてくださいませんか。」

達磨大師と忍者関係です。最初に考えた御朱印が達磨大師で、このお寺の達磨大師像がかつこよく見え、なおかつ書きやすいと思い、平成6、7年頃に書き始めました。当初は御朱印に絵を描く人が稀でしたから、御朱印に絵を描くことと怒られたこともありました。

ある日、参拝者に達磨大師の御朱印を書いたところ、「達磨さんは何か禅に關係があるのでですか」と聞かれました。禅の僧侶だと理解していただけたと思います。したが、「丸いダルマさん」という印象

で禅の僧侶であることを知らないようにした。慧可断臂の話も意外と知られていないです。禅と達磨大師の繋がりを説明した時に、これは教化になると思いました。

「御朱印にはどれくらいの影響力がありますか。」

寺院そのものを知っていただくことが、もっとも大きな影響だと思いますが、御朱印の活動がボランティアにつながることもあります。ボランティアには色々な形があり、被災地に向向いて炊き出しや支援をするのももちろん大切ですが、高齢になってくると身体的に厳しい面があります。御朱印の浄財を義援金にすることで後方支援ができ、それを目的にしたイベントを行うこともあります。また観光振興という面では、大きな神社仏閣でなくても御朱印の魅力で立ち寄りたいた観光ポイントにもなり得ます。実際に、熊野古道、高野山の後に当寺に立ち寄る方も少なくありません。地域活性化の一助として御朱印は有効だと感じております。

「当時はまだSNSなどPRするものがない時代ですが、参拝者が来られるまでどうでしたか。」

認知されるまで時間がかかり、ブーム



が当寺の御朱印を見つけられてくれたような感じですが。ネットの普及前、御朱印を趣味にされている方が出版した本に載ったのが全国的になったきっかけです。珍しい御朱印やアートな御朱印などで特集を組んだ本が多くあり、それを見て北海道から沖縄まで様々な地域から来ていただきました。

— 人気が出てからも大変なことはありませんか。 —

御朱印がテレビで紹介され、御朱印を求める参拝客が殺到したことがあります。今はHPやSNSに必要事項を掲載し人流を制御できますが、ブーム渦中は何をしても効果がなく、参拝者が想定以上に多い状態が続きました。2010年頃はSNSの普及によりブームになり、ほぼ24時間書いている状態で、依頼された御朱印が部屋に積み上がっていました。

SNSでの告知はそれを見ていない人も多いです。また、大きい寺社ですと書きさんがいますので、その感覚で来られる人も一定数います。境内に張り出した掲示でも都合良く解釈する人や、全く読まない人もいます。書き入れを住職一人だけである場合は、家族にはなるべく対応させず、住職が不在時は休みにしておくことが不用意なトラブルを避けるコツかもしれません。

— これから御朱印を始める青年僧侶に向けて、アドバイスやメッセージをいただけますでしょうか。 —

自分のお寺の歴史に紐付けた御朱印や一仏両祖に結びつけた御朱印を書いて、そこに宗教的意義を見出していたきたいです。我々僧侶が理解してお授けしないといけないですし、布教活動の一環として提供できるように考える必要があります。曹洞宗として、一仏両祖の墨書の御朱印は各寺院が必ず出せるものです。他宗派では、南無妙法蓮華経など一貫性のある御朱印を出している宗派もあります。宗門として一貫性のある御朱印がありつつ、自由な発想のものもあっていいと思いますし、その両輪でした方が教化として御朱印の位置づけができるのではないかと思います。

どこのお寺でも必ず様々な歴史があります。まずは縁起書を読み返し、裏付けを取るために図書館などで地域の歴史書や研究紀要を紐解き、必要であれば古書店で手に入れ、調べてほしいと思います。お寺のルーツから発案した御朱印は、必ず末代まで引き継げるものであり、その御朱印とそのため得られた知識は必ずや寺宝になると思います。

取材／広報委員 補陀孝亮
広報委員 植本大貴





伊村 千尋師

静岡県藤枝市 向善寺副住職
大本山永平寺で3年半ほど修行
する中、受処で御朱印を書いて
いた経験を活かし現在は自坊で御朱
印を書く。DIYが趣味で、それ
を活かし新しい御朱印の形として
飛び出る御朱印を考案する。

服部 満瑛師

静岡県静岡市 浄元寺副住職
lifestyleとしての仏教を勧める
ため、アパレルを中心に誰でも身
につけやすい仏教ブランドを展
開。SNSを使い御朱印やライブ
配信を通じて宗教、宗派を超えて
交流している。

手塚 裕太師

静岡県静岡市 明光寺住職
宝積寺の「宝」に因んだダイヤ
や誕生石の御朱印で、参拝者との
ご縁を結び布教活動に努める。

「皆さんが御朱印を始められたきっかけを教えてください。」

手塚師

四国のお遍路に行ったことです。また、御朱印を通じて、自分が携われる法務の中で初めて自身が楽しく活動しながら、相手に喜びを与えることができることに気づいたのも御朱印を真剣に取り組み始めたきっかけの1つです。

さらに、人口減少に伴い地域や地方の少子化対策として、外部の方にお参りしていただけないかという問題解決において御朱印が適切ではないかと思いました。

服部師

大学生の頃に住職と西国の巡礼に行きましたが、その時は御朱印がどういふものか分かりませんでした。その後、手塚

さんに誘っていただき自分が書く側になった時に、皆さんの喜んだ顔を見るのがとても嬉しくなり今に至ります。

伊村師

大本山永平寺安居中に受処で御朱印を書いた経験がありました。婿に入ったお寺にも元々御朱印がありましたので、その技術を活かせないかと思いました。お寺に入りすぐ始めたのではなく、活動の模索をしている間にコロナ禍になりました。様々な活動ができなくなりお寺にいる時間が増えたので、本格的に始めたのはコロナ禍になってからです。コロナ禍中だけでも、皆さんにご支援という形でお渡しできればと思いました。

「ご自身が制作された御朱印の中で特に思入れのあるものがあれば、その理由も含めて教えてください。」

手塚師

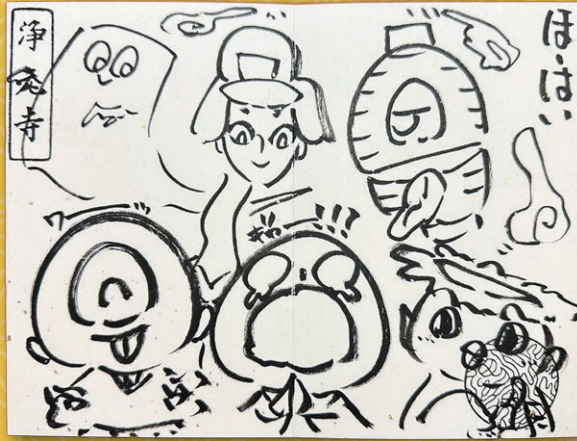
祈願達磨の御朱印と月替わりの花の御朱印です。祈願の御朱印であれば心の拠り所になるお守りのような形になり、月替わりの花の御朱印は季節感を楽しんでいただけます。また、対面して書けば悩みも聞け、毎月季節に合った言葉などを書いてその場で布教もできるので、それぞれ役割があると思います。

服部師

この地域にお寺は多いですが、御朱印をしているお寺は少ないです。その中で絵が下手ながらもお地蔵さんを描いていると、たくさんの方々に来てくださるようになりました。そこからそのお地蔵さんに名前を付けたと思った時、御朱印帳に「奉拝」と書いているので、お地蔵さんを「ほーはいさん」という名前にさせていただきました。皆さんが「ほーはいさん」と言ってくれたり、僕にとってはお地蔵さんが布教になったと思えます。

伊村師

他の仕事もしているので不在が多いですが、私しか書けないので不在時は書き置きになってしまいます。それならば書き置きではないと表現できない特別感を出したいと思いい、立体のものを作りました。今、御朱印を帳面の中に集めるだけでなく部屋や玄関に飾ったりする方もいます。私のものを仏壇に飾ってくださいる方もおられ、御朱印という概念から良い意味で外れ、立体のものが欲しいという方もおられます。自坊のご本尊様の御朱印なので、ご本尊様の前で皆さんの健康や安全など祈禱法要をしてからお渡しすること、付加価値をつけるようにしております。



「デジタル御朱印を制作された狙いと、今後の活用方法、またどのようにどのような方に必要とされていると感じますか。」

手塚師

※1 NFTの御朱印の狙いとしてはアナログのものをデジタルで活かし、改めて価値を考えてみるという試みです。京友禅では下絵のデザインは着物に落とし込んだ後はそのまま何も使わずにしまい込んであるというものがあります。それをデジタル化して御朱印と掛け合わせ、また世に生み出すという試みです。そこが1番大きな点で、昔の伝統的なものをどうやってまた蘇らせるかということだと思います。それに御朱印も役に立っていないかというところで、友禅の柄に御朱印の字を重ねて出しております。NFTで購入された方は、それを自分のものにできます。自分で使う分にはキーホルダーやクリア

ファイルにしたり、様々な形で転用して使うことができます。

ただデメリットもあり、NFTなので仮想通貨での購入になり対応できない方は購入ができません。まだ普及はしていませんが、徐々に浸透していく過程を見ていける試みです。

「御朱印を始められてから苦労された経験、大変だった経験というものはありますか。」

服部師

これは皆さん多分一緒で、檀務との兼ね合いがありますし直接的な対面にも限界があります。月1回は御朱印会、御朱印の受付をしたいと思っても、檀務が重なるのでできない場合もあります。

また、御朱印帳を預かっているので期限内に合わせることで。私たちは郵送対応もしているので全国から郵便で届きますが、それをいつ書くのが難しいです。

手塚師

月替わりの御朱印を考え続けていくのは簡単ではありませんでした。書き置き、直書き合わせて年間24種類。それとは別に誕生石などもあります。1つ1つ考案する時間、製作しそれを世に送り出す手間など色々方法を考えないと続けないのは難しいです。

「御朱印のデザインはどのように決められていますか。」

伊村師

デザインを考えるのは朝課中や普段の生活だけでなく、子どもと遊んでいる時にふと目に入ったものが活かせるのではないかと思います。私は子どもに絵本を読んでいる時に見た絵本がたまたま飛び出るもので、この飛び出るといふ仕掛けを活かせないかと思いました。生活すべてにそういうものが隠れているので、本当に御朱印のことを頭の片隅に常に置いて生活していると色々ヒントが生まれてきます。

手塚師

私のお寺の名前は「宝積寺」なので、字で連想して宝、ダイヤ、スワロフスキーという連想をしました。シンプルものだと寺院名などが1番連想しやすいものはあります。宝石のイメージからターゲットは女性とし、女性の方々に惹かれるようなものをデザインしております。

「御朱印を新しく企画される際、そこに込める思いや経緯を教えてください。」

手塚師

季節感と1つ1つにその時々々に伝えたい思いを込めることを大切にしています。

※1 NFTは、仮想通貨のようなブロックチェーン上で管理されるデジタル資産の一種。唯一性を持ち、デジタルアートやコンテンツに所有権を付与するために使用される。

拝受された方は、夜寝る前に1日の振り返りをしながら御朱印を見てくださる方がいるので、その方が自分の心境と重ね合わせた時に改めて布教としての役割を果たしていればありがたいと思います。

服部師

例えば今日お寺に来ていただいた時に万灯会の提灯がある場合は、それと一緒に御朱印をいただきたいという、境内の季節感も実は大事だと思います。お寺で見つけたものを一緒に撮影しSNSに載せてくださる方もいるので、季節感を出すのもいいと思います。

「これから御朱印を始める青年僧侶に向けて、アドバイスやメッセージをいただけますでしょうか。」

手塚師

まだ積極的に取り組まれていない方は是非取り組んでみてはいかがでしょうか。御朱印やその活動によって様々な経験ができますし、その広がり方が自分の想像を超えてより良い方向へと進んでいきます。工夫を凝らし、コツコツ積み重ねることで運営面に関してもきつと大きな味方になってくれると思います。

服部師

全く面識のなかった輪島の神社さんが私の御朱印を気に入ってください、御朱印イベントと一緒にやりましょうと言っ

ていただきました。そうしている間に能登半島地震で神社が倒壊してしまい、やっと県外に出られるような状態の中にも関わらず静岡まで来てくださり、お寺でチャリティー御朱印会をしました。

そういった今まで関わったことのない神社さんや、他宗派のご寺院さんも御朱印会に参加してください、宗教、宗派を超えて一丸となり活動できるといっても御朱印の魅力ではないのかなと思います。

伊村師

御朱印を集めている方は、自分のSNSに載せてくださったりします。周りのお寺さんや一般の方の声も当然ありますが、自分がそれを御朱印といえればそれは御朱印になるので、周りの声にあまり耳を傾けすぎるとなるとは思います。

基本的には字と朱印でできあがるので、これほど初期投資が必要のない事業というのには中々ないと思います。副住職や徒弟でお金の部分で運営に携われないこともあるかと思いますが、だからこそ意気込みを持って御朱印を書いていたとき、自分がそのお寺を運営する一人にならなければという気持ちも大事だと思います。

取材／広報委員 補陀孝亮

広報委員 植本大貴





御朱印を通じて向き合う信仰



昨今、若い世代が都市部に移住する傾向が強く、地域の繋がりも縮小傾向にあります。少子化問題や物価の高騰により修繕費や維持費も上がっていき、将来的に維持が困難となる寺院が増えていくと言われている中で、時代の変化に合わせて各寺院の取り組みも重要になってきます。

今特集記事では4師にお話を伺いました。山本老師は自身のお寺のルーツを探ること、歴史を研究することで御朱印の為だけではなく、そこで得られた知識こそがお寺にとっての寺宝であり、その後の僧侶としての人生の財産になると言われました。実際に山本老師も歴史を研究していく中で、2012年に日本三大忍術伝書の1つである紀州忍者の秘伝書『正忍記』を書かれた名取三十郎の墓所と位牌が見つかりました。その後は自ら忍術を研究、修練され、講演会などを行いながら市と協力し、和歌山城などで地域の観光振興に利用されています。手塚師、服部師、伊村師は、青年僧侶であるからこそその活力を活かし、檀務や作務のみならず、自らが寺院を運営する一人である自覚をもって生活することの大切さを説かれました。

今特集を通して皆さんに感じたことは、御朱印でより多くの人に布教を行い、様々な方々の助けになりたいという気持ちでした。檀信徒の方々以外にも仏教や曹洞宗の禅を分かりやすく布教するため様々な工夫を考え、地域のために御朱印を活用して積極的にイベントやボランティアを行うことは青年僧侶のあるべき姿だと感じました。ライフスタイルの多様化や生活のデジタル化が進んでいく中、より寺院や僧侶の本質が問われる時代となりました。現代の価値観やライフスタイルに寄り添いながら、古来より伝わる文化を大切にし、より多くの方に曹洞宗の魅力が伝わるよう努めてまいりましょう。

文／広報委員 補陀孝亮



東北管区

令和6年7月8日(月)、宮城県仙台市の見松寺様で全国災害復興支援活動東北管区研修会を開催し、僧侶や寺院合わせて75人が参加しました。講師として、NPO法人災害救援レスキューアシストの中島武志氏をお招きしました。

午前11時に見松寺御住職・小林定明老師からご挨拶を頂戴し開会となりました。炊き出し研修では、炊き出しに必要な調理器具や適している食材について解説がありました。実際の調理を進めていく中で、座学では決して体験できない熱気や技術について学びを深めることができました。調理した料理は参加者が役割



分担し盛り付け実食しました。

午後の部では、「災害復興支援心得講義」が行われました。これまでのボランティア活動の経験や、それを踏まえた実践上のアドバイスなどをお話しいただきました。午前の部と同様に、実践からのフィードバックという大変貴重なものを言語化していただき、その一端に触れられたことは、これからの我々の活動の助けになると感じました。被災者の苦悩、そして被災地に向かう者の心構えを決して忘れず、青年僧侶として確実に寄り添っていく、そうしたボランティア活動に結び付く、有意義な研修会となりました。

文／広報委員 佐藤孝成



北海道管区

令和6年9月2日(月)、北海道釧路市の定光寺様で全国災害復興支援活動北海道管区研修会を開催しました。NPO法人災害救援レスキューアシストの中島武志氏を講師にお招きし、僧侶や寺院を合わせて69人が参加しました。

炊き出し研修ではアルファ米や様々なおかずの調理を実演し、参加者にも衛生面に配慮しながら手際よく作業する方法を体験していただきました。午後には中島氏による「災害復興支援



心得講義」が行われ、被災地に寄り添った支援の在り方について、今年の能登半島での経験も取り入れてお話しいただきました。

講演の後のパネルディスカッションでは、火山噴火時の対応や、困難を抱えた被災者とのコミュニケーションについてなど様々な質問が寄せられ、活発な意見交換につながりました。

参加者一人一人が、「自分に何ができるか」を考える実りある研修会となりました。

文／広報委員 竹田龍永



四国管区

令和6年9月26日(木)、愛媛県西条市・興雲寺様で、四国管区の災害復興支援研修会を開催しました。四国各地と全曹青出向者合わせて、30人の方にご参加いただきました。四国管区からの参加者は同地区青年会員の約半数とのこと。はじめに、会場である興雲寺御住職で、東日本大震災が発災した全曹青第18期に副会長であられた高木一晃老師よりご挨拶いただきました。

午前の炊き出し実演は、森井宗淳50周年記念事業実行委員長を中心に、全曹青出向者が実演を行いました。実演の合間



には、災害復興支援部コーディネーターでもある宮本昌孝副会長より、能登半島地震をはじめとする各地災害の状況についての報告を行いました。

午後の講義では、石川県珠洲市で災害支援を行っている中島武志氏とオンラインでつなぎ、災害支援の心得についての講義がありました。活発な意見交換も行われました。作業のスピードも大切だが、住民の方に寄り添って活動するということが、何よりの大きな支援であると気付かされた研修会でした。

文／広報副委員長 信行一宏



創立50周年記念事業 開催報告

禅喫茶「RYUREI」尾道開催

みました。フリートークの時間も設けられ、仏教や禅のことから僧侶の日常生活のことまで様々な質問が寄せられました。和やかな雰囲気の中で禅の心に親しんでいただき、心を調え、日常に安らぎを見出すひと時となりました。

青年僧侶が自ら人々の行き交う場所に赴き、新たなご縁の輪を広げていくことで生まれる可能性の大きさが感じられる企画となりました。

文／広報委員 竹田龍永



令和6年6月28日(金)に広島県尾道市の「フルーツラボしまなみ」様で、「禅」×「喫茶」のイベントである禅喫茶「RYUREI」を、創立50周年記念事業「禅のつどい」の一環として開催し、男女合わせて10人の方にご参加いただきました。

参加者はまず店舗の一角で坐禅を体験し、続いて坐禅中に聞こえてきた音の感じ方を切り口とした法話に耳を傾けながら、青年僧侶が点てたお抹茶とお店でご用意いただいたスイーツの味わいを楽し



加 盟 曹 青 会 活 動 レ ポ ー ト



第54回九州曹洞宗青年会総会

「長崎大会」

令和6年6月24日（月）、長崎市稲佐山観光ホテルで盛大に開催されました。当日、長崎県曹洞宗青年会会長福田師の粹な計らいにより、長崎市海雲山皓臺の粋な拝観という、とても貴重なご縁を頂戴いたしました。現堂長であられる齋藤芳寛老師にご挨拶させていただきました、新本堂の地下に新築された納骨堂や、坐禅堂などを拝観させていただきました。お昼前ということもあり、境内に隣接している皓臺寺幼稚園の食欲をそそる昼食の



香りに包まれながら館内を拝観でき、とても穏やかな気分になりました。

総会は、開講諷経・記念講演・理事会・懇親会と滞りなく行われました。特に（株）エナジーソースの高村幸治様による記念講演は、グループディスカッションも含めた、楽しくてわかりやすい内容で、私たち青年僧侶のコミュニケーションスキルを磨く良い機会になりました。この度の講演での教えを基に今後も精進させていただきます。

懇親会は、長崎市内の夜景を一望できる会場で行われました。冒頭には長崎県第1宗務所所長浦辺世紀老師にご挨拶いただき、各県会員賑やかに交流を深めることができました。思い返せば、コロナ禍、宴会どころか友人との会食すらできなかった過去はほんの1〜2年前のことです。失って初めて実感する「当たり前」のありがたさを噛み締めながらの懇親会となりました。

今後も九州曹洞宗青年会では、理事会はもちろんのこと、球技大会や「TCB」での情報共有も含めて活動してまいります。九州各県曹洞宗青年会の「連絡協議体」として、各種事業・情報発信に努めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。最後に、今回の総会開催にあたり多大なご尽力をいただいた長崎曹青をはじめとした各曹青会員の皆様に感謝を申し上げ、結びとさせていただきます。ありがとうございます。

文／九州管区理事 霊元圭昌

第31回曹洞宗北海道青年会全道大会

「北見大会」

令和6年6月26日、北見市「ホテル黒部」を会場に約130人出席のもと開催しました。

今大会では「宗教とグリーンフケア」をテーマに、コロナ禍を経験して多様な価値観が生まれてくるこれからの時代、私たち宗侶にも新たな視点が必要だろうという考えのもと、準備を進めてまいりました。

開会式典では大会会長鎌田孝明師導師のもと開会諷経が執り行われ、続いて北海道管区長鎌田宏惇老師、全曹青会長田ノ口太悟師が祝辞を述べられました。

記念講演では公認心理士の井手敏郎氏が「大切な人を亡くした方に接する時に知っておいてほしいこと」と題し、グリーンフケアについて講演されました。講演では喪失を経験した方に起こる悲嘆反応、またそのような方とどのような姿勢で関わっていけばよいのか。敬話敬聴で相手を尊重して寄り添う大切さに改めて気付く機会となりました。最後にコロナ禍後初めてとなる懇親会が行われ、広い道内各地の仲間と一堂に会して旧交を深め、無事円成することができました。

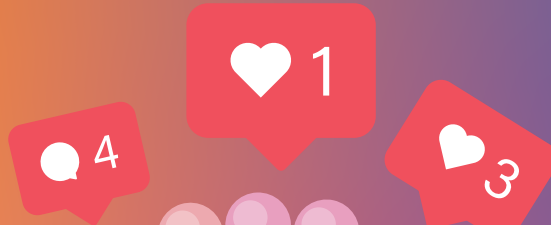
文／大会実行委員長 米田憲人



記念講演 講師 井手敏郎氏



@okuizumo.myorakuji



#つながる禅フォト

全曹青の公式インスタグラムで連載している「日常に溶け込む、禅」シリーズですが、多くの方に #つながる禅フォトのハッシュタグをつけて投稿いただいております。共通のハッシュタグを通じて、素敵な作品が集まっている様子は、今期テーマでもある「結集」に通じるところがあります。今回はその一部をご紹介します。



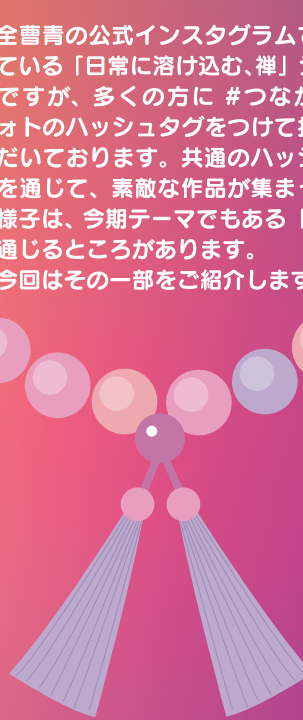
@ryusai_takayanagi



@zen_33tetsu



@terachan_0606



@ko_gen_ji



@houkoji39daime



@jourakuji_onga



Instagram



@ZENSOUSEI

全国曹洞宗青年会
公式インスタグラム

Follow



@senchouji

🔍 #つながる禅フォト



**令和6年能登半島地震
支援活動について**

全曹青では、5月9日～10日に曹洞宗石川県青年会とともに、被害が特に大きい輪島市・珠洲市・能登町・穴水町・七尾市の被災寺院31ヶ寺を訪問してまいりました。それまでご遠慮されておられたご寺院様からも手伝って欲しいとお声がけをいただき、加盟曹青会をはじめとする関係団体と協力し、被災寺院様への支援活動を行っております。

6月26日には、大本山總持寺祖院で災害復興支援活動北信越管区研修会を開催し、75人の僧侶、寺族、臨濟宗妙心寺派「花園禅塾」の方が参加いたしました。被災地での現地ボランティアを兼ねた開催でもあり、各避難所や公民館へ450食分の炊き出しを研修会と並行して行い、午後には総門前の瓦礫撤去や大祖堂の清掃活動をいたしました。

また9月21日からの石川県能登地方を中心とした記録的な大雨は、河

川の氾濫や土砂災害をはじめ、甚大な被害を各地に及ぼしました。復興・復旧途中での災害に、皆様の無念さはいかばかりかと存じます。全曹青では、各曹青会や関係団体と連携し、1日でも早い日常生活の復旧を目指して活動してまいります。被災されたご寺院様で、お手伝いできることがございましたら、災害復興支援部までお声がけいただけると幸いです。

文／災害復興支援部事務局長
清泉雄太



月	活動日	団体名	活動内容
6月	4日	全国曹洞宗青年会	仮設住宅ニーズ調査
	5日～6日	静岡県菊川市仏教会	寺院支援
	5日～6日	長崎県曹洞宗青年会	寺院支援
	12日～13日	福岡県曹洞宗青年会	寺院支援
	17日～18日	宮城県曹洞宗青年会	炊き出し
	17日～18日	曹洞宗静岡県第一宗務所青年会	寺院支援
	19日～20日	静岡県菊川市仏教会	寺院支援
	25日	四国地区曹洞宗青年会	寺院支援
	25日	曹洞宗長野県第一青年会	炊き出し、仏跡整備
	25日	曹洞宗山梨県青年会 全国曹洞宗青年会	炊き出し
	25日	いずも曹洞宗青年会	寺院支援
	26日	北信越管区曹青 曹洞宗山梨県青年会 全国曹洞宗青年会 花園禅塾	炊き出し、寺院支援
	29日～30日	全国曹洞宗青年会 花園禅塾	寺院支援
7月	8日～10日	長崎県曹洞宗青年会	寺院支援



臨済宗妙心寺派「花園禅塾」と の災害ボランティア活動報告

令和6年6月29日・30日、石川県輪島市門前町で臨済宗妙心寺派「花園禅塾」の皆様27人と災害ボランティア活動を行いました。花園禅塾とは臨済宗妙心寺派の徒弟教育のため、僧堂に準じた寮制の生活をしている施設です。この活動は花園禅塾より依頼があり、全曹青がコーディネートしました。

29日午前の活動は、大本山總持寺祖院北方の和田山にある「兩尊坐禅石」復旧と山道整備、午後は祖院裏山にあるコンクリートで作られた三十三観音の祠復旧



や参道整備でした。午前の活動終了後には、地元の郷土史研究会会長より坐禅石にまつわる道元禅師と瑩山禅師のお話や、坐禅石が地元の方々から祖院の伝燈院と同様に大切にされているというお話をいただきました。この復旧がわずかでも地元の皆様の心の安寧となれたのなら幸いです。

30日は祖院で被害を受けた蔵から他部屋に移動している大量の文化財(記録書)の整理を行い、その後は祖院の三浦信了直歳補老師に山内の拝観を行っていただきました。発災当時における祖院の状況や、これまでのご自身の体験談をもとに被災した際の心掛けをお話しになりました



た。

今回の活動では他宗派の方々とともに活動を行い、同じ青年僧侶として何ができるのかを考える貴重な経験でした。両日とも大変な作業でしたが、花園禅塾皆様の統率された行動により、想定した時間より早く活動を終えることができました。刻一刻と被災地の状況は変化していきますが、今回のご縁を大切にこれからも青年僧侶だからこそできる復興支援活動を継続してまいります。

文／広報委員長 宮本貴心





令和6年山形県大雨災害

山形県庄内地方では、酒田市・遊佐町を中心に河川の氾濫や土砂災害が発生し、甚大な被害がありました。宗門寺院においても、土砂が大規模に流入した寺院、伽藍が広範囲に床上浸水した寺院がありました。

山形県第三宗務所青年会では発災後まもなく、浸水被害のあったご寺院様で畳や家財等の運び出し作業を支援いたしました。また、酒田市ボランティアセンターの支援活動にも参加しております。8月末現在でもいまだ土砂撤去の目処すら立たない地域もあります。当会では被害のあった宗門寺院に対する支援を中心に、継続して活動してまいりたいと考えております。

文／山形県第三宗務所青年会会長
木村嶺佑



令和6年秋田県大雨災害

令和6年7月24日からの豪雨災害では、広範囲にわたり河川氾濫や土砂流入など甚大な被害が発生しました。由利本荘市の瑞光寺様では境内脇に位置した水路より土砂が墓地へと流入し、30日より墓地の土砂撤去を行いました。地域の研鑽会や教区ご寺院様、青年会OB、ご寺族様など総勢18名に参加していただき、暑い中でしたが予定より1日早く作業を完了することができました。多くの方々の協力により迅速な対応が可能となり、今後も復興支援活動を継続する予定です。

最後になりますが、この度被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

文／秋田県曹洞宗青年会
ボランティア委員長 二坂佳邦



重機が入りにくい墓地や庭は、土砂が30cmほど堆積しており、スコップで撤去



全日本仏教青年会、令和6年度第1回臨時理事会開催

令和6年9月10日に東京巣鴨にある正大大学を会場に、令和6年度第1回臨時理事会が開催されました。全日仏青副理事長・田ノ口会長が議長を務め、今年度の事業計画案と予算案について話し合いがもたれ、各委員会それぞれ承認されました。

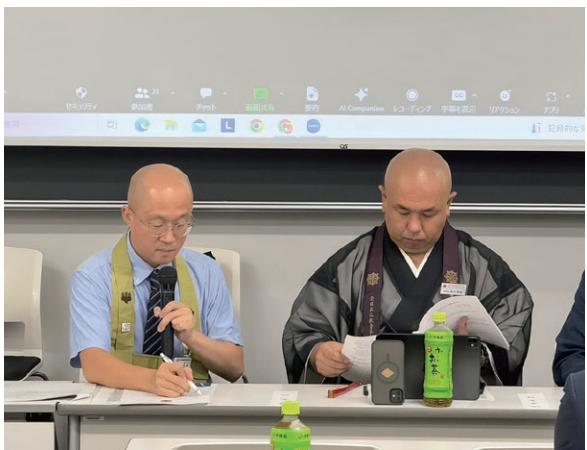
全曹青は本年も全国浄土宗青年会と共に国際委員会を担当し田ノ口会長が国際委員長を務めることとなり、1年間全日



本仏教青年会（以下、全日仏青）の国際事業を主導していくこととなりました。期に一度開催している全国大会に関して、実行委員会が立ち上がりました。来年4月もしくは5月の開催に向け準備を進めていくことになり、日本三鳥居と言われる「金峯山寺」「厳島神社」そして新井理事長の所属する和宗「四天王寺」の宗教者とAIによる対話を主としたシンポジウム開催を目指すことが発表されました。

例年4月26日に開催している仏法興隆花まつり千僧法要も、来年は土日と重なるため日程変更を検討しております。全国大会と合わせ詳細が決まり次第皆様へご案内させていただきます。多くの皆様のご参加と全日仏青の活動へのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

文／副会長 高柳龍哉



委員長 **神野大賢**

愛知県第一曹洞宗青年会

「国際」というキーワードの中、自分たちには全曹青には何が出来るか。試行錯誤の日々ですが、少しずつ活動の広がりも出てきたと実感しています。また、昨今では日本に住む外国人の人数も340万人を超えており、海外ばかりでなく国内を見つめなおす必要も出てきたと思います。私たち僧侶も当然、この「国際」社会の一員です。全曹青国際委員会もその名に恥じぬよう、しっかりと努めていきたいと思っています。

副委員長 **三浦拓生**

岩手県曹洞宗青年会

前期に引き続き国際委員を拝命し、全日仏青へは事務局として出向させていただいております。曹洞宗のみならず様々な宗派の青年僧侶と出会い共に活動することにより、多くの経験や学びを培うことができ大変ありがたく思います。全曹青創立50周年という貴重な節目に携わることができての喜びと無事円成を冀い、今後とも励んでまいります。

委員 **高倉秀哲**

茨城県曹洞宗青年会

全曹青創立50周年の記念すべき期に法縁をいただいたことに感謝いたします。国際宗教である仏教において、「国際」に関わる委員会が何をしたら良いのか、何が出来るのかという5年後・10年後を見据えた、「今、ここ」の在り方を参照してまいります。創立50周年記念事業の無事円成、そして青年宗侶の役割を果たすべく会務に励んでまいります。

委員 **松浦昭弘**

大阪曹洞宗青年会

第25期より国際委員会に参加させていただいております。これまであまり外国語に触れる機会がなかったのですが、オンラインでの坐禅会や翻訳作業などを通して普段ではできない貴重な経験をさせていただいております。グローバル化が進む現代では必要不可欠な要素なのだと改めて考える良い機会になりました。まだまだ不慣れではございますがどうぞよろしく願いいたします。

委員 **伊藤孝彦**

曹洞宗鳥取県青年会

国際という言葉にほとんど縁が無く、外国語にも不安のある中での配属となり心配でしたが、国際交流という貴重な経験をさせていただいております。またそれだけでなく、他県からの出向会員の方々と交流することができ、様々な考え方を受け感心ばかりです。全曹青創立50周年の事業へも携われることの有り難さを感じながら、智慧を深め自身の可能性も広げていけるよう精一杯努めてまいります。

委員 **藤原玄光**

いずも曹洞宗青年会

同じいずも曹洞宗青年会から出向されていた方からお誘いをいただき、第25期国際委員として出向させていただいております。委員会内では通常の活動に加え、会計も担当させていただいております。外国語を扱うことや会計処理を行うこと、どちらもほとんど経験がなく悪戦苦闘しながらも多くの学びを得させていただいております。微力ではございますが、全曹青の一員としてその活動の一助になれるようさらに精進してまいります。

◆宮城県

7 保壽寺 様
55 實相寺 様
102 吉祥寺 様
141 自照院 様
212 祥雲寺 様
301 洞源院 様
310 洞福寺 様
324 光嚴寺 様
326 林昌院 様
352 安永寺 様
420 玖光院 様

◆岩手県

8 源勝寺 様
17 清水寺 様
52 福蔵寺 様
55 長壽寺 様
67 永昌寺 様
81 円城寺 様
98 興禅院 様
102 光明寺 様
133 大林寺 様
179 圓滿寺 様
185 長泉寺 様
196 建高寺 様
198 東安寺 様

◆青森県

69 常現寺 様
79 法光寺 様
100 澄月寺 様
105 東昌寺 様
183 大乘寺 様

◆山形県1

36 久昌寺 様
101 長泉寺 様
158 清龍寺 様

◆山形県2

272 鳳萊院 様
322 洞松寺 様
344 蔵高院 様
365 林泉寺 様
417 繁應院 様
◆山形県3
468 宗傳寺 様
503 梅林寺 様
622 光星寺 様
623 歡喜寺 様
652 青陽院 様
687 寶泉寺 様
722 永蓮寺 様
734 東光寺 様

◆秋田県

27 永源寺 様
49 乗江院 様
153 龍泉寺 様
184 護昌寺 様
186 永泉寺 様
187 西光寺 様
206 松雲寺 様
245 常泉寺 様
265 倫勝寺 様
302 天昌寺 様
313 立昌寺 様
321 鏡得寺 様
338 圓通寺 様

◆北海道1

13 曹溪寺 様
456 大昌寺 様

◆北海道2

181 永祥寺 様
241 孝徳寺 様
379 法音寺 様
451 永泰寺 様

◆北海道3

199 祥雲寺 様
224 禪龍寺 様
268 瑞雲寺 様
460 道貫寺 様
492 永建寺 様

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、
またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

全国曹洞宗青年会創立50周年 協賛金芳名録

2024年7月1日～2024年9月30日取扱い分

◆愛知県 報恩寺 様

創立50周年記念事業 祝賀芳名録

災害復興支援活動研修会（7.8東北管区、9.2北海道管区、9.26四国管区）

北海道 定光寺 大道光肇 様
北海道 仙鳳寺 成澤廣仁 様
宮城県 見松寺 小林定明 様
愛媛県 興雲寺 高木一見 様
曹洞宗北海道第三宗務所第三教区 様
曹洞宗北海道第三宗務所第三教区寺族会 様
宮城県曹洞宗青年会 様
青森県曹洞宗青年会 様
四国地区曹洞宗青年会 様
曹洞宗北海道第二宗務所第三教区青年会掬水会 様
曹洞宗北海道第三宗務所第二教区青年会禅林会 様

東北管区理事 菊池裕紀 様
秋田県曹洞宗青年会会長 鮎川義寛 様
曹洞宗福島県青年会会長 内藤宏信 様
宮城県曹洞宗青年会副会長 渡邊桂堂 様
山形曹洞宗青年会 金森成裕 様
曹洞宗福島県青年会 佐藤正乗 様
曹洞宗北海道第二宗務所第六教区空知青年会 谷口紆人 様
曹洞宗北海道第三宗務所第三教区青年会道心会 新川泰玄 様
曹洞宗北海道第三宗務所第三教区青年会道心会 新川浩隆 様
曹洞宗北海道第三宗務所第四教区青年会発心会会長 袴谷憲由 様

頂戴いたしました浄財は、全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業の
円成のために活用させていただきます。衷心より御礼申し上げます。

広報誌『SOUSEI』第206号・P19内の表記に誤りがございました。
つきましては、下記の通り訂正をさせていただきます。
ご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

誤 第17期副会長 高垣晶敬 様
正 第17期事務局長 高垣晶敬 様

賛助費浄納芳名簿

2024年7月1日～2024年9月30日取扱い分

◆東京都

14 法音寺 様
95 西照寺 様
170 吉祥寺 様
173 江岸寺 様
175 泰宗寺 様
210 法清寺 様
240 東雲寺 様
371 円明寺 様

◆神奈川県2

1 本覺寺 様
14 傳心寺 様
83 正翁寺 様

◆埼玉県1

93 光秀寺 様

◆埼玉県2

238 松林寺 様
248 長泉寺 様
257 高養寺 様
368 東昌寺 様

◆群馬県

77 龍門寺 様
99 龍傳寺 様
144 雙松寺 様
167 祥雲寺 様
194 善宗寺 様
311 泉通寺 様
359 泉龍院 様

◆栃木県

1 成高寺 様
23 松楽寺 様
36 妙見寺 様
46 龍昌寺 様
93 乾徳寺 様
175 本光寺 様

◆茨城県

13 龍泉院 様
39 常安寺 様
76 雲集寺 様
92 宝積寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
12 高根寺 様
22 廣壽寺 様
25 萬福寺 様
29 慶林寺 様
30 興陽寺 様
93 芳泰寺 様
198 太高寺 様
296 東善寺 様

◆山梨県

29 西光寺 様
212 慈観寺 様
269 西方寺 様
392 慈照寺 様

◆静岡県1

26 宝珠院 様
95 久應院 様
138 龍興寺 様
388 林叟院 様
464 正泉寺 様
501 養徳寺 様

◆静岡県2

228 耕月寺 様

◆静岡県3

584 長興寺 様
989 観音寺 様
1208 法雲寺 様
1312 香勝寺 様

◆静岡県4

1095 天林寺 様

◆愛知県1

18 大運寺 様
58 聚福院 様
80 普光寺 様
101 成福寺 様
135 光明寺 様
139 祇園寺 様
158 秀傳寺 様
309 常宿寺 様
313 長松寺 様

◆愛知県2

342 常楽寺 様
605 天徳寺 様
606 向陽寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
677 祐源寺 様
824 東昌寺 様
1191 智光院 様

◆愛知県3

684 花井寺 様
893 法蔵寺 様
411 福田寺 様
431 報恩寺 様
496 常照寺 様
557 楞嚴寺 様
1106 寶鏡寺 様

◆岐阜県

119 佛徳寺 様
153 宗久寺 様
190 長久寺 様
5 悟春院 様

◆三重県1

37 四天王寺様
166 陽光寺 様
269 大蓮寺 様
364 観音寺 様

◆京都府

33 興聖寺 様
38 東運寺 様
46 榮春院 様
91 福泉寺 様
236 善光寺 様
367 福昌寺 様
374 等楽寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

5 臨南寺 様
26 天徳寺 様
31 正泉寺 様
98 吉祥寺 様
107 實相院 様

◆奈良県

81 諦崇寺 様

◆和歌山県

52 宗應寺 様

◆兵庫県1

3 歓喜寺 様
287 向榮寺 様
337 友松寺 様
370 明善寺 様

◆兵庫県2

103 東林寺 様
117 法円寺 様
149 瑞光寺 様
240 隆国寺 様

◆岡山県

3 長川寺 様

◆広島県

22 光禅寺 様
46 雙照院 様
48 真観寺 様
76 長福寺 様
86 西金寺 様
95 泉龍寺 様
133 少林寺 様
135 鳳林寺 様
143 常林寺 様
158 西福寺 様
181 東明寺 様

◆山口県

4 寶蔵寺 様
25 弘濟寺 様
145 久屋寺 様
216 玄空寺 様
236 飯倉寺 様

◆鳥取県

27 景福寺 様
151 安国寺 様

◆島根県1

332 興源寺 様

◆島根県2

36 舜叟寺 様
58 洞光寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
161 太林寺 様
187 養善寺 様

◆愛媛県

113 西禅寺 様
146 興雲寺 様
164 城慶寺 様

◆福岡県

5 妙徳寺 様
25 南林寺 様
28 桂木寺 様

◆大分県

8 豊音寺 様
134 長安寺 様

◆長崎県1

33 妙本寺 様
42 西方寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県

118 養寿寺 様

◆熊本県1

28 大慈寺 様

◆熊本県2

78 地藏院 様
79 向陽寺 様
88 明德寺 様

◆鹿児島・沖縄県

1 福昌寺 様

◆長野県1

39 盛傳寺 様
65 柳原寺 様
86 圓福寺 様
87 寶昌寺 様
150 長泉寺 様
587 観音庵 様

◆長野県2

389 宗福寺 様
419 宗徳寺 様
558 無量寺 様

◆福井県

48 洞雲寺 様
196 空印寺 様
232 長泉寺 様

◆石川県

64 永光寺 様

◆富山県

54 大淵寺 様
149 薬王寺 様

◆新潟県1

358 円光寺 様
368 正通寺 様
389 雲居寺 様
393 曹源寺 様
453 龍澤寺 様
487 宝泉寺 様
496 長樂寺 様
503 龍源寺 様

◆新潟県3

623 摩尼王寺様

◆新潟県4

19 林照寺 様
246 福源寺 様
780 観音寺 様

◆福島県

7 清水寺 様
19 常円寺 様
46 龍傳寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
119 長泉寺 様
131 天性寺 様
156 大龍寺 様
162 昌建寺 様
226 常隆寺 様
246 長徳寺 様
266 洞雲寺 様
461 正法寺 様

令和6年7月25日の記録的豪雨では、秋田県・山形県を中心に各地で甚大な被害が報道されています。また、令和6年8月28日から9月2日にかけて西日本に上陸した台風10号では、西日本を中心に大雨暴風の被害が報告されました。

それぞれの災害で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りしますとともに、被害に遭われた皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。1日でも早く皆様方の日常生活の復旧が実現されますことを心より祈念申し上げます。

9月21日からの石川県能登地方を中心とした記録的な大雨は、河川の氾濫や土砂災害をはじめ、甚大な被害を各地に及ぼしました。復興・復旧途中での災害に、皆様の無念さはいかばかりかと存じます。

お亡くなりになりました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、1日でも早い日常生活の復旧をご祈念申し上げます。



全曹青では、日々変化する社会に新たな教化の場を築くため、『全曹青公式YouTubeチャンネル』を運営しております。チャンネル登録者数1万人を突破した令和4年3月から2年間で、チャンネル登録者数2万人を突破いたしました。450万回再生を越す動画から、青年僧侶らしいオリジナリティのある動画まで、様々なコンテンツを掲載しています。今後とも更新をお楽しみください。

YouTube

全曹青公式
YouTube
チャンネル



表紙の話

今号表紙では、特集テーマである「御朱印」を意識し、赤い糸で人と人の縁を表現しました。縁にも色々なものがありますが、願わくば御朱印で結ばれる参拝者と寺院の縁が、花のように鮮やかな良縁であればと思います。

撮影/50周年記念事業実行副委員長 菅悠生